

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	7月	16日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小西	西田	三谷
	宮本	本井	山口	渡辺	
取材対象先	奈良市：都祁相河町の阿弥陀三尊石柱・十三仏石碑				

所在地	奈良市都祁相河町(つげそうごちょう)				
所有者(取材 対応者)名	区長 ***氏 (個人情 報守秘)		連絡先 ***		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：相河区長 ***氏				
市町村 指定文化財	彫刻	2基	阿弥陀三尊石柱 1983(昭和58)年2月8日 旧都祁村指定、十三仏石碑 1986(昭和61)年3月13日 旧都祁村指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	都祁村史には阿弥陀三尊石柱の説明として次の記載がある。「正面に阿弥陀如来立像、右側面に勢至菩薩立像、左側面に観音菩薩立像が薄肉彫りで刻まれている。阿弥陀如来は右手を上げ、左手を垂らす上品下生印を表し、勢至菩薩は宝冠をつけ、左手に蓮華を捧持しており、通常の合掌形とは異なっている。観音菩薩は低い宝冠をつけた顔は正面を向き、蓮台捧持の両手と身体はやや斜めの側面の姿となっている。」阿弥陀三尊石柱の制作時代については、鎌倉時代とも室町時代ともいわれている。				
文化財の状況					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法			記入者の感想	
	ろうそくはガラスケース内で灯すよう整備されている。			石に彫られているうえ、火に対する配慮もされている。	
獣害対策	設備・対策・点検・通知方法			記入者の感想	
	特にない。			石なので特に必要ないと思われる。	
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	阿弥陀三尊石柱は地元では薬師さんとして、安産や子孫繁栄の願いを込めたおまつりが続いている。それだけでなく、地域のおよそ半数の家の方々が毎朝水やお茶を供えに来るため様々な湯呑み茶碗が石仏の前に並んでいる。薬師さんが鎮座する横には大きな一本杉や木々が生えていて、それらの枝を剪定する時にもお祓いをしてから切り、伐採した材は皆で見守りながら燃やす。決していい加減な扱いはしない。そのように語る区長の言葉はたいへん力強かった。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
阿弥陀三尊石柱(通称「薬師さん」とその向かって左隣の六地藏を彫った石は覆い屋で保護されている。その土台部分は石材を積み上げ、お供えの湯呑みを置くための石製の台やろうそくを灯すガラスケース等も整備してある。すべて地域の方々でされたとのこと。多くの家の方が毎朝お参りされているということから、これからも相河の方々によってきっと大切にされるであろうと感じた。					

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2023年	7月	16日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小西	西田	三谷
	宮本	本井	山口	渡辺	
取材対象先	奈良市：都祁相河町の阿弥陀三尊石柱・十三仏石碑				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 阿弥陀三尊石柱

文化財(正面)

文化財(角度を変えて、写真)



正面に阿弥陀立像を彫り、側二面に脇侍を配して珍しい彫法を示す。(『奈良県史 石造美術』より)

文化財周辺の様子

文化財(アップ) 左脇侍観音

阿弥陀三尊石柱(通称薬師)が鎮座する森↓



↑堂の外右脇花崗岩に彫られた六地藏尊。太田古朴氏によると、後に持って来て石柱に付随の六地藏石と合わせ十二体仏、十二神将石とし礼拝された。



↑蓮台を捧げ持つように両手を前に差し出す観音

文化財の由緒などを記入 おまつり

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

総高は1.3mで、一辺約20cmの石柱の三面に阿弥陀三尊が刻まれている。「安産守護のコードの薬師：昔から、天より薬師如来が降臨されたとき、ご仏体が二つに分かれて、一つは吐山の成福寺のカク薬師となられ、一つが相河に降りて、この天(あま)の薬師となられたと言い伝えられている」(『都介野村史』より)。9月12日(近年は9月12日までの日曜日)に「こもり」といって、子どもと母親で弁当を持って来てお参りする。はじめに葉っぱを川にのべ100回持って行き流す。これは「こおりとり」と言って清める意味がある。石は室生火山帯に分布する一種で硬質石。

奈良時代に、平城京と伊勢を結び、都介野盆地を通過する当時の国道「都祁山之道」が開かれる。相河はその側で、西に行けば小夫から初瀬に通じ、北に行けば都祁山之道から伊賀・名張に通じる。阿弥陀三尊石柱は吐山と相河を結ぶ道沿いの小さい高まりの上にある。相河石仏は通称「こぞの薬師」と呼ばれ古名称の講田(こうでん)・神殿(こどの)が通称された。(太田古朴「鎌倉前期石像美術 十輪院石龕 仏・生駒惣持寺・都祁相河石仏の年代 三」および『都祁村史』参照)

市町村指定文化財取材票<裏>②

取材日	2023年	7月	16日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小西	西田	三谷
	宮本	本井	山口	渡辺	
取材対象先	奈良市：都祁相河町の阿弥陀三尊石柱・十三仏石碑				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 十三仏石碑

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
------------	-----------------



高さ
一〇五センチメートル



外郭に江戸初期元禄八年(一六九五)の年号がある。(『奈良県史 石造美術』より)

文化財 (安置状態の全体写真)



種子で刻まれた十三仏



文化財の由緒などを記入

「右下から左上に向かって不動明王・釈迦如来・(中略)の十三仏を種子(梵字)で刻んでいる。十三仏信仰は道教の十王思想と地藏十王経に基づく信仰が結びついて発展したもので、のちに三仏が加わり十三仏となる。初七日から三三回忌まで十三回の仏事に配当した仏・菩薩・明王を追善供養することによって死後の安楽を願った。南北朝時代に成立し、室町時代以降、民衆に広まり盛んになった。」(『都祁村史 下巻』より)

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

阿弥陀三尊石柱と道を隔てて相河墓地がある。相河(そうご)はその西隣の小山戸(おやまと)と並んで、都祁富士と呼ばれる都介野岳の南西に位置する。大和の国の水分四社の一つである都祁水分神社の神ははじめに小山戸にある都祁山口神社に鎮座されたと伝えられる。相河も小山戸とともに水源に近く、米のおいしいところである。中世には地侍の相川(相河)氏が城を構えた。